

岩手県教育史資料第32集 岩手県立教育センター  
 終戦前後の例規(昭和20年を中心として)  
 福島県教育史資料第3集 福島県教育委員会  
 青森県教育史第4巻資料編2 青森県教育委員会  
 富山県教育史上巻 富山県教育委員会  
 千葉県教育百年史第3巻 千葉県教育委員会  
 新潟県教育百年史明治編 新潟県教育委員会  
 山口県政史上巻 山口県  
 山口県政史下巻 山口県  
 神奈川県教育史資料編第1巻 神奈川県教育委員会

D 教育行財政(D1~D6)

過疎地域における教育体制に関する研究('71.3)  
 一農山村の児童・生徒の生活意識—山口県教育研修所  
 教育制度等の研究(その2) 46.3  
 財団法人日本私学教育研究所  
 研究紀要第9集(46.3) 徳島県教育研修センター  
 教員の教育意識に関する調査研究  
 後期中等教育の編成に関する基礎的研究(8)  
 一大都市に流入する勤労青年の適応と成長(2)—46.3  
 大阪府科学教育センター  
 市町村教育委員会の実態と問題 千葉県教育センター

H 幼児・初等・中等・高等教育(H1~H5)

幼児教育に関する実態調査報告書, 産業教育調査報告書  
 福島県教育委員会  
 高等学校入学者選抜に関する調査研究 研究紀要第22号  
 熊本県立教育研究所  
 児童・生徒の生活意識の実態(1) 長野県教育センター  
 こどもの性格・行動と教師の意識に関する調査  
 石川県教育研究所  
 幼児教育に関する基礎的研究(3) 2部門 46.3  
 大阪府科学教育センター  
 海外勤務者子女の教育諸問題 豊中市教育研究所  
 幼児教育に関する研究(Ⅲ) (46.3) 石川県教育研究所  
 一幼児の数概念発達段階について—  
 就学前教育の必要性の研究(研究紀要第67集 '70)  
 横浜市教育研究所  
 高校生の学習および生活の実態と意識に関する調査  
 和歌山県教育研修センター  
 「義務教育改善に関する意見調査」報告書  
 全国教育研究所連盟  
 福島県高校教育(46.3) 福島県高等学校教育研究会

I 特殊教育

精神衛生研究第19号 国立精神衛生研究所  
 学校恐怖症児に対する個別介入と集団処遇統合の試み  
 他6編  
 教育研究第44号 障害児の発達保障とその指導に関する  
 基礎的研究(Ⅱ) 京都府教育研究所  
 情緒障害児に関する研究('71.3) 山口県教育研修所  
 精神薄弱特殊学級の現状と問題点に関する調査  
 (その1) 熊本県立教育研究所

特殊教育に関する研究(9) 大阪府科学教育センター  
 一心身障害児の教育的処遇の拡大と深化のために—  
 特殊教育20年の歩み 盛岡市教育研究所  
 一仁王小学校・精薄学級の記録—  
 医療機関に入所していない病弱の児童・生徒に対する教  
 育についての在り方と, その指導についての研究  
 盛岡市教育研究所  
 精神衛生資料第17号 国立精神衛生研究所

F 教育内容・教育方法(F1~F9)

生徒指導必携('71.6) 福島県教育委員会  
 学習指導の手びき 福島県教育庁義務教育課  
 創造的学力を伸ばす学習指導 郡山市教育委員会  
 学校を休むこども(教育相談活動報告第4集)  
 京都府教育研究所  
 登校拒否に関する研究(2)('71.3) 名古屋市教育館  
 一母親との面接—  
 学習指導改善に関する研究(6) (46.3)  
 大阪府科学教育センター  
 複式学級の学習指導に関する実践的研究(46.4)  
 北海道立教育研究所

◇表紙題字……所 長 白岩 和夫  
 ◇表紙の絵……当センター嘱託 鈴木 正孝

編集後記

所報第3号をお届けします。燈火親しむ候とか。先生  
 方には教育研究・実践にご精進のことと拝察いたしま  
 す。例によって巻末に教育研究資料を紹介いたしました  
 が、情報化時代といわれ、当センターに送られてくる各  
 種機関からの刊行物等(情報)の量は、**ぼう大なもの**  
 です。比較的部厚な研究紀要, 研究報告書等のたぐいは,  
 それ自体、情報として、整理、分類、保管、検索、利用  
 が可能ですが、100頁未満の各種資料は、**VERTICAL**な  
 配架方式をとっても検索がひじょうに困難となります。  
 (とくにパンフレット、リーフレット等型式の刊行物は  
 保管自体が問題となってきます)かといつて、相互関連  
 性のない冊子を数冊ないし数10冊まとめて自主製本する  
 といつても今度は、分類、保管に矛盾がでてきます。  
 そこで、そのような資料はコンピュータに記憶させて  
 おいて、必要なときに **OUTPUT** できないものかと考  
 えるわけですが、漢字の混った複雑高度な日本語による  
 文章を、機械語に変換することは不可能といわれ、直接  
**INPUT** も勿論だめでしょう。ところが最近某会社が簡  
 単な漢字混りの日本語をコンパイラなしで直接コンピ  
 ュータに **INPUT** する技術開発に成功したようですが、こ  
 うなると、これも未来にかける夢の一つといえましょ  
 うか。  
 ともあれ、このような情報過多時代には、情報を吟味  
 し、整理するとともに、不必要な情報をいかに捨てるか  
 が資料管理上の問題となっておりますが、“不必要”と  
 だれが、いかなる価値規準で判定するのか、がまた問題  
 でもありましよう。(佐々木勝夫)